

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 平成25年2月6日

【四半期会計期間】 第60期第3四半期(自平成24年10月1日至平成24年12月31日)

【会社名】 TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社

【英訳名】 TDC SOFTWARE ENGINEERING Inc.

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 谷上俊二

【本店の所在の場所】 東京都渋谷区千駄ヶ谷五丁目33番6号

【電話番号】 03 3350 8111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 岩田伸

【最寄りの連絡場所】 東京都渋谷区千駄ヶ谷五丁目33番6号

【電話番号】 03 3350 8111(代表)

【事務連絡者氏名】 取締役管理本部長 岩田伸

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

提出会社の経営指標等

回次	第59期 第3四半期 累計期間	第60期 第3四半期 累計期間	第59期
会計期間	自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日	自 平成23年4月1日 至 平成24年3月31日
売上高 (千円)	11,834,270	11,956,204	16,741,288
経常利益 (千円)	390,588	424,184	866,252
四半期(当期)純利益 (千円)	184,504	240,512	393,069
持分法を適用した場合の投資利益 (千円)			
資本金 (千円)	970,400	970,400	970,400
発行済株式総数 (株)	6,278,400	6,278,400	6,278,400
純資産額 (千円)	5,795,925	6,158,611	6,029,159
総資産額 (千円)	8,446,971	9,049,091	8,582,962
1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)	30.68	40.12	65.44
潜在株式調整後 1株当たり四半期(当期)純利益金額 (円)			
1株当たり配当額 (円)			25.00
自己資本比率 (%)	68.6	68.1	70.2

回次	第59期 第3四半期 会計期間	第60期 第3四半期 会計期間
会計期間	自 平成23年10月1日 至 平成23年12月31日	自 平成24年10月1日 至 平成24年12月31日
1株当たり四半期純利益金額 (円)	10.69	10.31

- (注) 1 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりませんので、四半期連結累計期間に係る主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
- 2 売上高には、消費税等は含まれておりません。
- 3 当社は持分法適用の関係会社がないため、「持分法を適用した場合の投資利益」については記載しておりません。
- 4 「潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額」については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
- 5 第60期第3四半期累計期間の純資産額には、E S O P信託口が所有する当社株式が「自己株式」として計上されております。一方、1株当たり四半期(当期)純利益金額、潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、上記の当社株式を自己株式とみなしておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期累計期間において、当社、国内非連結子会社(1社)及び海外非連結子会社(1社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期累計期間における、本四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、投資者の判断に重要な影響を及ぼす可能性のある事項の発生、又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中における将来に関する事項は、当四半期会計期間の末日現在において当社が判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第3四半期累計期間におけるわが国経済は、復興需要などを背景に緩やかな回復基調となっているものの、欧州の債務問題、世界経済の減速基調の継続などを原因に依然として先行き不透明な状態が続きました。

情報サービス産業においても、IT投資回復の兆しがあるものの、国内景気の先行き不透明感を受けて、企業のIT投資は未だ慎重な姿勢が続いております。

このような環境の中で、当社は、平成22年4月から平成25年3月における中期経営計画『For the NEXT STAGE』のもと、価値あるサービスを提供し、お客様の繁栄への寄与に努めております。また、お客様のIT投資動向に機敏に対応し、受注の確保・拡大、製造工程の価格競争力強化、新たな市場・事業の獲得を重点施策として取り組んでおります。

当第3四半期累計期間の業績は、前年同期に比べ金融分野が減少したものの、法人分野及び公共・公益分野がともに堅調に推移し、また、プロジェクトマネジメントの強化に努め不採算案件の発生を抑制し収益性が向上したことなどにより、売上高は11,956百万円（前年同期比1.0%増）、営業利益は382百万円（前年同期比5.7%増）、経常利益は424百万円（前年同期比8.6%増）、四半期純利益は240百万円（前年同期比30.4%増）となりました。

(2) 経営成績の分析

売上高

当第3四半期累計期間の売上高は前年同期に比べて121百万円増加し、11,956百万円(前年同期比1.0%増)となりました。

売上高の業種分野別の内訳は次のとおりであります。

金融分野は、クレジット関連向けの大型システム開発案件が端境期であったことなどにより、前年同期比6.6%減収の7,175百万円となりました。

法人分野は、通信関連向けのシステム開発案件が堅調に推移したことなどにより、前年同期比7.3%増収の3,361百万円となりました。

公共・公益分野は、エネルギー関連向けのシステム開発案件が堅調に推移したことなどにより、前年同期比39.0%増収の1,420百万円となりました。

(単位：百万円)

業種分野/期	前第3四半期累計期間		当第3四半期累計期間		前年同期比増減率
	金額	構成比	金額	構成比	
金融	7,680	64.9%	7,175	60.0%	6.6%
法人	3,132	26.5%	3,361	28.1%	+7.3%
公共・公益	1,022	8.6%	1,420	11.9%	+39.0%
合計	11,834	100.0%	11,956	100.0%	+1.0%

売上原価及び販売費及び一般管理費

売上原価は、前年同期と比べて98百万円減少し、10,075百万円(前年同期比1.0%減)となりました。これは、プロジェクト管理を徹底し生産性の向上に取り組んだことで外注費などの原価が減少したことによります。なお、売上高に対する比率(売上原価率)が、84.3%と前年同期比1.7ポイント改善しました。

販売費及び一般管理費は、前年同期と比べて199百万円増加し、1,499百万円(前年同期比15.4%増)となりました。これは、受注の確保・拡大に向けた営業部門の強化などによる人員の増加や、創立50周年記念行事に関係した経費が増加したことによるものであります。

営業利益

上記の結果、営業利益は、前年同期と比べて20百万円増加し、382百万円(前年同期比5.7%増)となりました。

営業外損益

営業外損益は、前年同期と比べて12百万円増加し、42百万円の利益(前年同期比44.0%増)となりました。これは、当第3四半期累計期間において、雇用調整助成金による助成金収入が増加したことによるものであります。

経常利益

上記の結果、経常利益は、前年同期と比べて33百万円増加し、424百万円(前年同期比8.6%増)となりました。

税引前四半期純利益

上記の結果、税引前四半期純利益は、前年同期と比べて44百万円増加し、424百万円(前年同期比11.7%増)となりました。

法人税等

税引前四半期純利益に対する法人税等の負担率は 43.3%となりました。

四半期純利益

上記の結果、四半期純利益は、前年同期と比べて56百万円増加し、240百万円(前年同期比30.4%増)となりました。また、1株当たり四半期純利益は、前年同期と比べて9.44円増加し、40.12円となりました。

(3) 財政状態の分析

流動資産

当第3四半期会計期間末の流動資産は7,267百万円となり、前事業年度末と比べて152百万円の増加となりました。主な要因は次のとおりです。

	前事業年度末	当第3四半期 会計期間末	増減	要因
現金及び預金	2,848百万円	3,098百万円	249百万円	1
売掛金	3,208百万円	2,641百万円	566百万円	2
たな卸資産	502百万円	972百万円	470百万円	3

- 1 運転資金の調達などによるものであります。
- 2 当第3四半期の売上が前第4四半期の売上に比べて減少したことによりです。
- 3 たな卸資産のうち、仕掛品の期越え案件の増加によるものであります。

固定資産

当第3四半期会計期間末の固定資産は1,781百万円となり、前事業年度末と比べて313百万円の増加となりました。主な要因は次のとおりです。

	前事業年度末	当第3四半期 会計期間末	増減	要因
無形固定資産	75百万円	164百万円	88百万円	1
投資有価証券	615百万円	652百万円	36百万円	2
差入保証金	563百万円	754百万円	190百万円	3

- 1 社内システム構築にかかるソフトウェアの開発によるものであります。
- 2 保有株式の時価上昇によるものであります。
- 3 次年度、本社移転に伴う新社屋の敷金の一部支払いによるものであります。

流動負債

当第3四半期会計期間末の流動負債は2,853百万円となり、前事業年度末と比べて353百万円の増加となりました。主な要因は次のとおりです。

	前事業年度末	当第3四半期 会計期間末	増減	要因
短期借入金	424百万円	989百万円	565百万円	1
未払費用	1,119百万円	746百万円	373百万円	2

- 1 運転資金の調達により増加したものであります。
- 2 賞与の支給等によるものであります。

純資産

当第3四半期会計期間末の純資産は6,158百万円となり、前事業年度末と比べて129百万円の増加となりました。主な要因は次のとおりです。

	前事業年度末	当第3四半期 会計期間末	増減	要因
利益剰余金	4,490百万円	4,581百万円	90百万円	1
その他有価証券評価差額金	15百万円	8百万円	23百万円	2

- 1 当第3四半期会計期間末の利益剰余金の増加は、繰越利益剰余金の増加であり、その内容につきましては「(2) 経営成績の分析」をご参照下さい。
- 2 保有株式の時価上昇によるものであります。

(4) 生産、受注及び販売の実績

当社は、開発から運用・管理までの一貫したシステム開発サービス及びシステム製品の販売等を一体とするシステム開発事業を営んでおり、当社におけるセグメントは、「システム開発」のみの単一セグメントであります。

なお、当社においては、開発システム等の納期が、得意先の期末（多くは3月）に集中する傾向が顕著であります。このため、売上高等は第4四半期会計期間に偏重する傾向があります。

生産実績

当第3四半期累計期間における生産実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	生産高(千円)	前年同四半期比(%)
システム開発	10,075,078	1.0
合計	10,075,078	1.0

(注) 1 金額は、製造原価によっております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

受注実績

当第3四半期累計期間における受注実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	受注高(千円)	前年同四半期比(%)	受注残高(千円)	前年同四半期比(%)
システム開発	12,344,364	+19.0	5,505,898	+35.0
合計	12,344,364	+19.0	5,505,898	+35.0

(注) 1 金額は、販売価格で記載しております。

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

販売実績

当第3四半期累計期間における販売実績は、次のとおりであります。

セグメントの名称	販売高(千円)	前年同四半期比(%)
システム開発	11,956,204	+1.0
合計	11,956,204	+1.0

(注) 1 主な相手先別の販売実績及び当該販売実績の総販売実績に対する割合

相手先	前第3四半期累計期間		当第3四半期累計期間	
	販売高(千円)	割合(%)	販売高(千円)	割合(%)
(株)エヌ・ティ・ティ・データ	1,786,063	15.1	2,144,767	17.9
富士通(株)	976,301	8.2	1,613,362	13.5
(株)セゾン情報システムズ	1,225,988	10.4	495,632	4.1

2 上記の金額には、消費税等は含まれておりません。

(5) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第3四半期累計期間において、当社の事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(6) 研究開発活動

当第3四半期累計期間の研究開発費の総額は24百万円(前年同期は13百万円)であります。

なお、当第3四半期累計期間において、当社の研究開発活動に重要な変更はありません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	25,000,000
計	25,000,000

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (平成24年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (平成25年2月6日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	6,278,400	6,278,400	東京証券取引所 市場第一部	単元株式数は100株 であります。
計	6,278,400	6,278,400		

(2) 【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (株)	発行済株式 総数残高 (株)	資本金増減額 (千円)	資本金残高 (千円)	資本準備金 増減額 (千円)	資本準備金 残高 (千円)
平成24年12月31日		6,278,400		970,400		242,600

(6) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

【発行済株式】

平成24年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式			
議決権制限株式(自己株式等)			
議決権制限株式(その他)			
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 175,200		
完全議決権株式(その他)	普通株式 6,074,900	60,745	
単元未満株式	普通株式 28,300		一単元(100株)未満株式
発行済株式総数	6,278,400		
総株主の議決権		60,745	

- (注) 1 「完全議決権株式(その他)」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が400株含まれており、当該株式に係る議決権4個を議決権の数から控除しております。
- 2 「完全議決権株式(その他)」の欄には、資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)名義の当社株式が含まれています。
- 3 「単元未満株式」欄の普通株式には、当社保有の自己株式89株が含まれております。

【自己株式等】

平成24年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) TDCソフトウェアエ ンジニアリング株式会社	東京都渋谷区千駄ヶ谷 5丁目33番6号	175,200		175,200	2.8
計		175,200		175,200	2.8

(注) 資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)が保有する当社株式は、上記自己保有株式には含めておりません。

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1．四半期財務諸表の作成方法について

当社の四半期財務諸表は、「四半期財務諸表等の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第63号)に基づいて作成しております。

2．監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期財務諸表について、有限責任監査法人トーマツによる四半期レビューを受けております。

3．四半期連結財務諸表について

「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)第5条第2項により、当社では、子会社の資産、売上高、損益、利益剰余金及びキャッシュ・フローその他の項目からみて、当企業集団の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に関する合理的な判断を妨げない程度に重要性が乏しいものとして、四半期連結財務諸表は作成しておりません。

資産基準、売上高基準、利益基準及び利益剰余金基準による割合は次のとおりであります。

資産基準	2.5%
売上高基準	0.6%
利益基準	2.9%
利益剰余金基準	0.4%

会社間項目の消去後の数値により算出しております。

1【四半期財務諸表】

(1)【四半期貸借対照表】

(単位：千円)

	前事業年度 (平成24年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成24年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	2,848,621	3,098,588
売掛金	3,208,334	2,641,503
たな卸資産	502,909	972,981
繰延税金資産	423,168	423,168
その他	131,453	131,118
貸倒引当金	122	46
流動資産合計	7,114,365	7,267,313
固定資産		
有形固定資産	58,835	65,451
無形固定資産	75,796	164,460
投資その他の資産		
投資有価証券	615,287	652,195
関係会社株式	37,280	37,280
関係会社出資金	77,000	77,000
繰延税金資産	28,181	15,000
差入保証金	563,514	754,511
その他	12,843	15,930
貸倒引当金	142	52
投資その他の資産合計	1,333,964	1,551,865
固定資産合計	1,468,596	1,781,777
資産合計	8,582,962	9,049,091
負債の部		
流動負債		
買掛金	558,615	616,557
短期借入金	424,000	989,967
未払金	152,468	122,523
未払費用	1,119,203	746,094
未払法人税等	80,764	58,959
資産除去債務	-	25,178
役員賞与引当金	32,200	41,250
受注損失引当金	-	20,626
その他	132,332	231,902
流動負債合計	2,499,584	2,853,059
固定負債		
リース債務	-	7,320
長期未払金	30,100	30,100
資産除去債務	24,118	-
固定負債合計	54,218	37,420
負債合計	2,553,803	2,890,479
純資産の部		
株主資本		
資本金	970,400	970,400
資本剰余金	831,738	820,450
利益剰余金	4,490,822	4,581,769
自己株式	248,362	222,295
株主資本合計	6,044,598	6,150,325
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	15,439	8,286
評価・換算差額等合計	15,439	8,286
純資産合計	6,029,159	6,158,611

負債純資産合計	8,582,962	9,049,091
---------	-----------	-----------

(2)【四半期損益計算書】
【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	前第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
売上高	11,834,270	11,956,204
売上原価	10,173,561	10,075,078
売上総利益	1,660,709	1,881,126
販売費及び一般管理費	1,299,333	1,499,020
営業利益	361,376	382,106
営業外収益		
受取利息	4,641	494
受取配当金	17,511	17,356
助成金収入	9,800	24,840
その他	5,449	5,258
営業外収益合計	37,402	47,950
営業外費用		
支払利息	7,921	5,062
その他	269	810
営業外費用合計	8,190	5,872
経常利益	390,588	424,184
特別損失		
投資有価証券評価損	10,639	-
固定資産除却損	355	-
特別損失合計	10,995	-
税引前四半期純利益	379,592	424,184
法人税等	195,087	183,671
四半期純利益	184,504	240,512

【継続企業の前提に関する事項】

該当事項はありません。

【会計方針の変更等】

当第3四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
<p>(会計上の見積りの変更と区別することが困難な会計方針の変更)</p> <p>当社は、法人税法の改正に伴い、第1四半期会計期間より、平成24年4月1日以後に取得した有形固定資産については、改正後の法人税法に基づく減価償却の方法に変更しております。</p> <p>これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。</p>
<p>(会計上の見積りの変更)</p> <p>当第3四半期会計期間において、平成25年度に本社を移転することを決定いたしました。これにより、移転に伴い利用不能となる資産について耐用年数を短縮し、将来にわたり変更しております。</p> <p>また、移転前の本社の不動産賃借契約に伴う原状回復義務として計上していた資産除去債務についても、償却に係る合理的な期間を短縮し、将来にわたり変更しております。</p> <p>これにより、従来の方法に比べて、当第3四半期累計期間の損益に与える影響は軽微であります。</p>

【四半期財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理】

当第3四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
<p>(税金費用の計算)</p> <p>税金費用については、当第3四半期会計期間を含む当事業年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算する方法を採用しております。ただし、当該見積実効税率を用いて法人税等を計算すると著しく合理性を欠く結果となる場合には、法定実効税率を使用する方法によっております。</p>

【追加情報】

当第3四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
<p>(従業員持株型インセンティブ・プラン(E S O P)に関する会計処理)</p> <p>当社は、平成24年11月7日開催の取締役会において、従業員の福利厚生充実及び当社の企業価値向上に係るインセンティブの付与を目的として、「従業員持株型インセンティブ・プラン(E S O P)」制度を導入いたしました。</p> <p>本制度では、「TDC社員持株会」(以下「当社持株会」)へ当社株式を譲渡していく目的で設立する「資産管理サービス信託銀行株式会社(信託口)」(以下「E S O P信託口」)が、信託期間で当社持株会が取得する規模の株式を予め一括して取得し、当社持株会へ売却を行います。</p> <p>E S O P信託口に関する会計処理については、経済的実態を重視し、当社とE S O P信託口は一体であるとする会計処理をしております。このため、E S O P信託口が所有する当社株式は、四半期貸借対照表において株主資本の控除科目の「自己株式」として表示しております。</p> <p>なお、E S O P信託口が所有する当社株式は、会社法上の自己株式に該当せず、議決権や配当請求権など通常の株式と同様の権利を有しております。</p> <p>平成24年12月31日現在においてE S O P信託口が所有する当社株式数は100,700株(四半期貸借対照表計上額75,122千円)であります。</p>

【注記事項】

(四半期損益計算書関係)

売上高の季節的変動

前第3四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)及び当第3四半期累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

当社は、官公庁や企業のシステム開発を主たる業務としており、得意先の期末(多くは3月)に納期が集中する傾向が顕著であります。このため、売上高は第4四半期会計期間に偏重する傾向があります。

(四半期キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期累計期間に係る四半期キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)
減価償却費	16,168千円	26,915千円

(株主資本等関係)

前第3四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成23年6月29日 定時株主総会	普通株式	150,943	25	平成23年3月31日	平成23年6月30日	利益剰余金

2 基準日が当事業年度の開始の日から当四半期会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額は、前事業年度末と比較して著しい変動がありません。

当第3四半期累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

1 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (千円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月28日 定時株主総会	普通株式	149,565	25	平成24年3月31日	平成24年6月29日	利益剰余金

2 基準日が当事業年度の開始の日から当四半期会計期間末までに属する配当のうち、配当の効力発生日が当四半期会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3 株主資本の著しい変動に関する事項

株主資本の金額は、前事業年度末と比較して著しい変動がありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期累計期間(自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)及び当第3四半期累計期間(自 平成24年4月1日 至 平成24年12月31日)

当社は、「システム開発」のみの単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎

項目	前第3四半期累計期間 (自平成23年4月1日 至平成23年12月31日)	当第3四半期累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年12月31日)
1株当たり四半期純利益金額	30円68銭	40円12銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益(千円)	184,504	240,512
普通株主に帰属しない金額(千円)		
普通株式に係る四半期純利益(千円)	184,504	240,512
普通株式の期中平均株式数(株)	6,014,065	5,995,259

- (注) 1 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。
2 当第3四半期累計期間の「普通株式の期中平均株式数」の算定に当たって、E S O P信託口が所有する当社株式は、自己保有株式ではないため、自己株式数に含めておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

該当事項はありません。

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年2月4日

TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社

取締役会 御中

有限責任監査法人 トーマツ

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 安藤 武 印

指定有限責任社員
業務執行社員

公認会計士 中島 達 弥 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているTDCソフトウェアエンジニアリング株式会社の平成24年4月1日から平成25年3月31日までの第60期事業年度の第3四半期会計期間(平成24年10月1日から平成24年12月31日まで)及び第3四半期累計期間(平成24年4月1日から平成24年12月31日まで)に係る四半期財務諸表、すなわち、四半期貸借対照表、四半期損益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して四半期財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期財務諸表の作成基準に準拠して、TDCソフトウェアエンジニアリング株式会社の平成24年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以上

(注) 1. 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社(四半期報告書提出会社)が別途保管しております。

2. 四半期財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれていません。